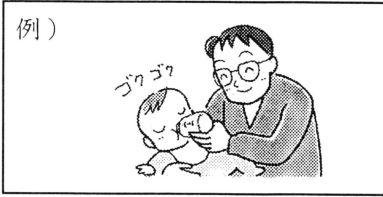


読 37. ~せる / させる (使役形) 読

1. 絵を見て、例のように文を完成しましょう。



例) お父さんは赤ちゃん(に)
ミルクを飲ませます。



- ① 監督かんとく は 選手せんしゅ () _____
- ② 課長かちょう は 田中君たなかくん () _____
- ③ 先生せんせい は 学生がくせい () _____
- ④ お母さんおははは 正明まさあき () _____

2. 休むのはだれですか。例のように書きましょう。

例) 母はは：熱ねつがあるので、太郎たろうを休ませます。 (太郎)

① 医者いしゃ：まだ、熱ねつが高いから、明日もアンナちゃんを休ませたほうがいいでしょう。

父ちち：そうですか。そうします。 ()

② ロペスロペス：店長てんちょうに電話でんわをして、アルバイトを休ませてもらいました。

ホセホセ：どうしたの？ 病気びょうき？ ()

③ 吉田よした：頭痛ずつうがひどいので、午後は休ませていただけませんか。

係長かかりちょう：しかたがないね。おだいじに。 ()

3. つぎの文を読んで、質問に答えましょう。

＜江戸川事件簿 ④＞ 中原久美の証言

兄は本当にりっぱな人なんです。両親が死んでから、兄が働きながら、私を育ててくれました。私を大学に行かせてくれたのも兄です。卒業して、兄といっしょに働いて会社を大きくしてきました。今、兄は社長ですが、みんなに尊敬されています。部下には親切で、無理な残業はさせませんし、冗談を言って、社員を笑わせるのも兄です。ですから、みんなは楽しく、よく働いています。

家庭でも、兄はいい夫だったと思います。兄は妻の富子さんを自由にさせていました。でも、富子さんはわがままな人でした。結婚したばかりのころは、富子さんも銀行の仕事を続けたがっていたので、兄もそうさせていました。でも、すぐに仕事が忙しくて、家事ができないから家政婦がほしいと言いました。富子さんが仕事をやめても家政婦を使っていました。そうじもせんたくも料理も家政婦にさせていました。それで、自分は、毎日テニススクールに行ったり、友だちと買い物をしたりしていました。兄が忙しく働いている時間にです。

あの晩、私は見たんです。兄にたのまれて、書類をとり、兄の家に行ったとき、富子さんが恋人を部屋に呼んで、お酒を飲みながら、楽しくすごしているのを。私は頭にきて、富子さんに言ったんです。「どうして兄と結婚したのか。」と。富子さんは「お金のためよ。あなたも仕事ばかりしないで、お金持ちの男と結婚すればいいじゃない。帰ってよ。」と言って、私にコップを投げたのです。私はテーブルの下にあった氷の入った袋をとって、富子さんをなぐりました。そしたら、富子さんはたおれて、テーブルに頭をぶつけて、動かなくなったんです。

- (1) だれが大学に行きましたか。 {兄/久美/社員/家政婦/富子}
- (2) だれが尊敬されていますか。 {兄/久美/社員/家政婦/富子}
- (3) だれが笑いますか。 {兄/久美/社員/家政婦/富子}
- (4) 「そうさせていました。」というのはどんなことですか。
a. 富子が仕事をやめること b. 富子が買い物すること
c. 富子が銀行で働くこと d. 富子が家政婦を使うこと
- (5) 「自分」とはだれのことですか。 {兄/久美/社員/家政婦/富子}
- (6) だれが書類をとりに行きましたか。 {兄/久美/社員/家政婦/富子}